

草津川跡地利用基本計画のまとめかた

第1章 計画の背景と目的

草津川跡地は、草津市のまちなかに隣接し、市街地を貫く貴重な空間であり、東海道・宿場町とともに発展してきたわがまちの伝統のシンボルです。

基本計画では、基本構想の検討結果を踏まえ、具体的な土地利用と、継続的に維持管理できる仕組みづくりについて検討します。

第2章 基本計画の策定に向けて

- (1) 草津市と草津川の歴史・文化・自然の資源を生かした街づくりを行います
- (2) 草津市に残された貴重な緑の空間を、都市の特徴づくりに生かします。
- (3) 草津市の都市再生、中心市街地の強化、活性化につなげます。

目標具体化の視点

- | | |
|-----------------|--------------|
| ■歴史・文化・環境の保全・活用 | ■都市ブランド力の向上 |
| ■新しい成長戦略の展開 | ■地域マネジメントの確立 |
| ■都市機能の連携・強化 | ■環境共生への対応 |
| ■農的な環境の積極的な活用 | |

第3章 トータルデザイン—全区間の基本的な枠組み

■トータルデザイン 草津川跡地の4つの機能「緑」「歴史」「防災」「交通」を、「景観」「コミュニティ」「防災・都市環境」の3つの要素から考えて行きます。（※交通は3つの要素連携を図るものと考えます）

■景観デザイン

「まちに架けるみどり」をテーマに、全体を通して「歴史性の継承」「自然との共生」「人間性」をランドスケープデザインの基本としつつ、各区間の特性を生かした多様な緑軸をつくり出します。

■コミュニティデザイン

市民がガーデニングやにぎわい施設づくりに、参加と協働のまちづくりとして参加し、連続して完成後の管理・運営の担い手となるような仕組みをつくり出します。

■防災・都市環境デザイン

広い防災広場としての活用とともに、非常時に役立つ施設を整え、日常的にはソフト面の防災コミュニティ活動を促し、エネルギー利用や植栽管理と連動した環境共生の要素を取り入れます。

第2回検討委員会 資料-1 p3、第3回検討委員会 資料-1 p1 より

第4章 空間計画

■全体の空間計画の考え方を下記に示します。

- ・安全で快適な交通・動線のつながり
歩行者、自転車、自動車が安全で安心できる動線として確保し、周辺との連携に努めます。
- ・魅力創出の鍵となる「自然風」植栽計画
多様で年と共に育つ植生、季節感や生物多様性を取り入れ、美しく、人を魅きつけるナチュラルガーデンとします。
- ・集客と自立運営に役立つにぎわい施設の導入
人が集い、交流の場とし、収益源ともなるショップ、マルシェ、スポーツ施設、ふれあい牧場、菜園やイベント広場などを配置します。
- ・日常の利用空間が防災空間へ
日常的な利用から、市民に身近な空間としての意識を醸成し、災害時に機能する施設整備を行います。
- ・歴史と景観の活用
天井川、堤体、旧街道等の空間特性を活かし、歴史や眺望を感じ、楽しむ空間づくりを行います。

第2回検討委員会 資料-2、第4回検討委員会 資料-1 p1 より

第5章 各区間計画

■第4章の検討を踏まえ、各区間の計画を具体的イメージにまとめます。

- ・区間② 農と人の共生をテーマに、人と農、人と動物の触れあう空間を整備します。
- ・区間③ 里山と人の交流をテーマに、雑木林に守られた市民の活動空間を整備します。
- ・区間④ 環境と人の共生をテーマに、隣接する空間と調和のとれたエコ空間を整備します。
- ・区間⑤ 人と人の交流をテーマに、各種ガーデンと共に楽しめるにぎわい空間を整備します。
- ・区間⑥ 時と人の出会いをテーマに、草津の歴史と未来をつなぐ空間を整備します。

※本計画でのテーマは定めましたが、今後の市民活動などの展開により市民と共に親しみのあるキャッチフレーズを検討するものとします。

第4回検討委員会 資料-1 p2～より
第5回検討委員会 資料-2 より

第6章 事業化計画

- 事業手法・管理運営計画 公共事業として実施するところ、民間事業・協働事業として実施するところを整理し、総括的な管理運営を担うエリアマネジメントを導入します。
- 事業収支計画 区間ごとの事業費を算出し、支出に対応する市費、補助制度、民間資金・基金等を効果的に組み立てます。
- 事業段階計画 周辺まちづくりとの連動、全体のモデルづくり、費用対効果等から事業化の優先性を考慮し、区間ごとに順次実現させつつ、そのつど計画に検証を加えつつ、次のステップに進めます。

第5回検討委員会 資料-2 より

第7章 実現へ向けて

市民活動醸成、コミュニティガーデン等を担う。計画に対する市民の合意形成、実施計画と事業への市民・事業者の参加を促しつつ、コミュニティデザインの実施、エリアマネジメント体制づくりに取り組みます。